

November 9, 2015

講師：尼川 ゆら（空間演出コンサルタント） 場所：静岡県コンベンションセンター

■はじめに

◎目的を知ること

図書館の目的とは？

◎相手を知ること（利用者の視点）

訪れる人が何を求め、何を感じているのか、相手の立場に立って見直すこと

例：生徒が図書室を利用できる時間の長さは？図書室までの距離と経路は？

◎自分を知ること（受け入れる側の視点）

伝えたいことは何か、利用者にどう感じてもらいたいのかを再確認する

1：空間を知ること

・空間に求められていること

例：入口は施設の顔＝本に例えるなら表紙と目次→ここで伝えるべき情報は？

・図書室の地図をつくる～目的別にエリア分けする～

読書エリア、書架エリア、情報掲示エリア、休憩エリア、展示エリアなど

・マイナス要素を取り除く

何かをプラスする前に、いらぬものを取り除く

2：空間を演出する

・空間の流れをつくる

例：入口→本との出会い→本を読むスペースへ→出口／ゆとり＝余白も美

・展示素材について

紙もいろいろ／手作りのちから／注意すること

・色について

分類・サインとしての色／見えづらい色（色覚異常の利用者について）

・小さなことから始めてみる

小さな変化がもたらす効果を体感する／「良くしよう！」の想いこそ魅力

3：ワークショップ

◎疑似空間を使って、利用者の目線と流れを体感するワークショップ

視線が集まりやすい場所、集まりにくい場所を知ることによって、利用者をひきつける空間づくり、利用者が回遊しやすい空間づくりについて考えます